

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ソルスタジオうさ		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 16日		2026年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2026年 1月 7日		2026年 2月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	常に子どもたちの様子や状況を職員全員が把握できるよう環境が整えられている。	子どもたちの一時の表情や些細な出来事も決して見逃さないよう、ミーティングやグループLINE等を最大限活用している。	日々の共有している情報を、支援記録や個別支援計画と連動し、職員間で共通理解を深めていく。支援の振り返りを定期的に行い、支援の質の向上につなげていく。
2	保護者の方への対応も丁寧に行っており、日々の活動と様子については画像を添えて追加報告している。	グループLINEでは、数日の間に行った活動で特に印象的だったことや子どもたちの楽しそうな姿を、画像や動画とともに文章で保護者様にお伝えし事業所での様子が分かるようにしている。	写真や文章による日々の報告に加え、子どもの成長や変化がわかる視点を意識した情報を共有していき、保護者の方と連携していく。
3	支援の「心がまえ」ができつつあるとともに、職員の障がいに関する知識がより蓄えられてきた。	障がい特性をもとにした研修を定期的に行うことで、支援中に生まれた疑問や意見を職員間で共有できる機会を設けている。	障がい特性に関する研修や事例検討の機会を定期的に設けていく。支援中に気が付いたことや課題を職員間で共有することで、個々の支援、事業所全体の支援の質の向上を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	自由時間において、空間や遊具の使い方が子ども任せになる場面が見られ、活動の構造化が十分とは言えない状況がある。	活動スペースの仕切りと仕分けが不足している。構造化がされていない。	今後は、活動スペースの区分けや遊具の配置を見直し、子どもが目的を持って活動できる環境を整える。また、個別支援計画と連動させた環境設定を行い、自由時間においても支援の意図が反映されるよう取り組んでいく。
2			
3			